



実用新案登録願 (4)

昭和55年5月31日

(4,000円)

特許庁長官 川原能雄殿

1. 考案の名称

ジュウシンカヘンガタヒツキグ
重心可変型筆記具

2. 考案者

住 所 ^{ソウカシヨシチヨウ} 埼玉県草加市吉町 4-1-8
^{ソウカコウジヨウナイ}
ベーター株式会社 草加工場内

氏 名 ^{セキ} 関 ^{グチ} 口 ^{トモ} 友 ^{ソウ} 三 (ほか1名)

3. 実用新案登録出願人

郵便番号 103

住所 ^{チユウウツ} 東京都中央区 ^{ニホンバシヨアサダ} 日本橋小網町 7番2号

(551)名称 ベーター株式会社

代表取締役 ^{ホリ} 堀 ^エ 江 ^{ユキ} 幸 ^オ 夫

4. 添付書類の目録

(1) 願書 副本 1通

(2) 明細書 1通

55 075436

方式
審査



176881

↓ (3) 函 面 1 通

5. 前記以外の考案者

住所 シンジ・ククナカオチアイ
東京都新宿区中落合2—9—1

氏名 イ トウ タダ ツグ
伊 藤 糾 次

住所

氏名

住所

氏名

住所

氏名

176881

明 細 書

1. 考 案 の 名 称

重心可変型筆記具

2. 実用新案登録請求の範囲

筆記具本体と、該本体内に配置し、本体に対し長手方向の位置を可変し得るようなした重量体とを有してなることを特徴とする重心可変型筆記具。

3. 考 案 の 詳 細 な 説 明

本考案は筆記者の好みに応じて筆記具の重心位置を適宜変更し得るようなした筆記具に関するものである。

筆記具の重心位置は筆記する書体に応じた位置に設定してやることが運筆するうえにおいて好ましい（例えば硬い字の書体には筆記具の前方位置に、又、軟らかい字（草書体等）には筆記具のやや後方位置に重心位置を設定してやることが好ましい）のであるが、従来の筆記具に

おける重心位置は筆記具個々に不変であるため、書体に適応しない重心位置を有する筆記具を使用する場合に連筆しづらいという不都合が生じていた。

本考案は、これ等の従来の不都合を解消することによって同一筆記具において書体に応じた重心位置を通宜選択し得る筆記具を提供せんとするものである。

本考案を添付図面に示す実施例に従い更に詳細に説明すれば以下の通りである。

まず第1図～第3図に示す実施例について説明する。

第1図において、参照符号1は筆記具の本体を示し、該本体1の内部には、シャープペンシルの鉛芯把持繰出機構あるいは、ボールペンのリフィール等の筆記体2（図ではシャープペンシルについて示した。）を配置してある。前記本体1と筆記体2との間には参照符号3で示す重量体を本体1に対する長手方向の位置を可変

し得るように配置してある。該重量体 3 の外面には、参照符号 4 で示す板バネ等よりなる弾性体をその一端が固着されることにより軸心方向へ変位可能に取り付けてある。又、該弾性体 4 の他端には後述する本体 1 と設けた係止孔 5 へ係止させるための突起 6 を固着してある。(第 2 図参照) 第 3 図において参照符号 5 は本体 1 の側壁に設けた係止孔で、長手方向に適宜間隔を置いて適宜数設けてあり、又、相互に該孔 5 の径より巾狭の連結溝 7 によって連結してある。

次に第 1 図～第 3 図に示す実施例の作用について説明する。

筆記する書体に応じて重心位置を可変するのであるが、例えば第 1 図に示す如く重量体 3 が最前部に位置している状態より重心位置をより後方に移したい場合には突起 6 を本体 1 外部より軸心へ向かって押圧し孔 5 との係合を解くとともに本体 1 の後方へすべらせ、所望の位置の孔 5 に係合させてやればよい。この時、突起

6 の押圧を解いてやれば弾性体 4 の弾力により突起 6 は元の位置に復帰するものであるから、前述の押圧を解くと同時に孔 5 との係合をなす。このようにして適宜書体に応じて重量体 3 を移動させ最適な重心位置を選択する。

次に第 4 図～第 6 図に示す実施例について説明する。

本実施例は、前述した実施例における重心位置の変化が不連続で段階的であるのに対し、連続的に重心位置の変化が可能となしたものである。その具体例を図面に従い説明すれば以下の通りである。

第 4 図において参照符号 1 および 2 は前述の実施例と同様に大体と筆記体とを示す。参照符号 403 は重量体を示し、外面には螺子 404 を施してあり内面には長手方向の溝 405 を設けてある。(第 5 図参照)前記本体 1 内面には前記重量体 403 の螺子 404 が螺合される螺子 101 を施してあり、又、前記筆記体 2 の外

面には長手方向の突起 2 0 1 を設け前記重量体 4 0 3 の溝 4 0 5 に摺動可能に嵌合するようになっている。

次に第 4 図～第 6 図に示す実施例の作用について説明する。

本実施例の重量体 4 0 3 の本体 1 に対して可変をする場合は本体 1 に対して筆配体 2 を回転させてやればよい。該回転によって重量体 4 0 3 も溝 4 0 5 と突起 2 0 1 との存在により前記筆配体 2 とともに本体 1 に対し回転させることになるから、重量体 4 0 3 は本体 1 との蝶合により前進あるいは後退される。本実施例では前述の如く重量体 4 0 3 と本体 1 との係合を蝶合としたため、重量体 4 0 3 の移動範囲の任意の位置に重量体 4 0 3 を位置させることが可能となる。

尚、本実施例中で示した重量体 4 0 3 の蝶合および嵌合はそれぞれ本体 1 と筆配体 2 とになしてあるが、それ等を逆の関係にすることも、

又、嵌合を筆記体2に設けた突起201を筆記体2に管状部材（図示せず）を被嵌し、該管状部材に突起を設け管状部材を回転させるようにしてもよいものである。

前述の如く、筆記具本体と、該本体内に配置し本体に対し長手方向の位置を可変し得るようなした重量体とを有してなる本考案によれば筆記する書体に応じた最適の筆記具の重心位置を得ることができ、よって運筆が円滑に行なえる効果を達成できるものである。

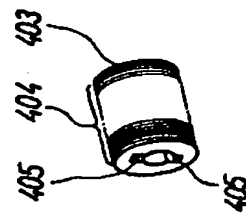
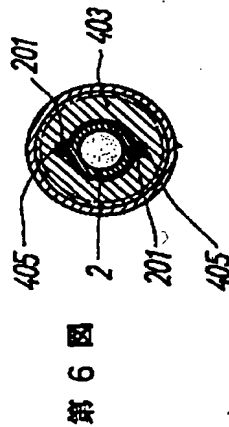
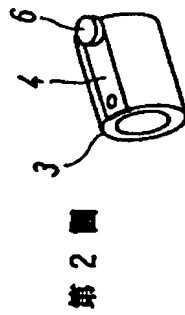
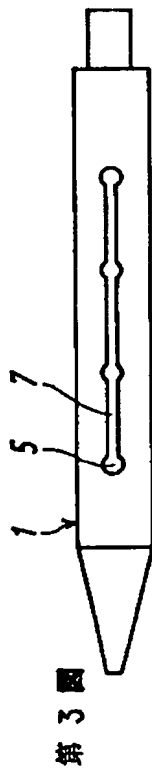
尚、重量体の位置を可変する手段については、前記した実施例以外に各種の手段が採用できるものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図～第3図は本考案を示す図、第4図～第6図は本考案の他の実施例を示す図である。

1 …… 本体 3、403 …… 重量体

実用新案登録出願人 ぺんてる株式会社



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☒ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☒ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.